



門口 9
 4190
 港



49-1881

曹大姑ハ後漢の世
 扶風の人班彪の女
 曹世林は其の兄
 リ法をありて方
 く好まらり兄の
 班固は作れ前漢書
 送れを補ハ八表
 天文志を撰めり
 當時の天子和
 帝の召とあり
 帝ハ皇后を
 入一皇后及ハ
 法を人々を教
 導さるるよし
 つけ女戒七章
 を作り献せ
 しものなり



女戒

甲辰夏



大和女誠 やまとぢよめい

卑ひ 弱じやく 章あやう 第一だいいち

古女を生バ三日^{きんづ}た^うま^めを^う床^ふ下^しよ^ふふ
 せーめ^めこれ^うは^そ尾^り塙^{てん}を^ば弄^りせ^めめ^め
 して告^つお^うま^うを^ふ床^ふ下^しよ^ふ外^ふへ^せー^せむ^めと^め
 と^いは^の其^ひ卑^きく^う弱^そく^くー^いて^と人^くよ^ぐ下^ぐる^とと

分類	了ほ
番号	370(1)
通番	

を主とするを明は主なり。これ
小尾塙を弄しむると其方々
らひ難法と云ふと我主と云ふと
にするを祀して先君は告ると
祭祀は継と云ふと主と云ふと
明ふはなるなり。このものハ蓋女人

れ常道として礼法の典教なり。
禮讓恭敬として人を先り己を後
り善あ道と云ふ名やするふと云
ふ惡あれども祥と云ふにやなく辱
を忍び垢法含みは祿り畏れ
懼るるがごとく是を卑く弱

くして人ふ下るといふ晩い祿早
おれて風夜は惺るとなぐ勢
を私事よりとりて劇きや易と
を辞せぬ取他にならず成て手
迹整ひ理むる是を勤と執ると
いふ色を正く探裁燭くして以

てままよつて清静りて自さる
戯れ笑と好あやなく酒食を
潔く齊てえつて祖宗小供ふこ
れを祭祀り終といふ之乃めれ
苟小俯りて名称の聞を家と熟
辱れ身は在とを患るをハ等

いさを見ず。この世の爲。これ
を失へど。何れ名称乃。安んじ
熟辱れ遠ざかるべし。と云ふあ
らんや。

夫婦章第二

夫婦の乃。陰陽。冬。配じ。

神明。通達。信ふ。地
弘義。人倫。の。大節。なり。見
つ。礼。ハ。男女。の。際。を。まじ。ハ
閑。雖。の。義。を。若。し。り。邪。ハ。由
て。あ。ま。を。い。ハ。ま。ん。せ。ず。ん。だ。み。
から。次。夫。賢。た。ら。ざる。と。ハ。み。

婦と御とてさく。婦賢なら
ざるを知らずて夫と事
した。夫婦を清め出さ
ざるハ威儀廢け婦主と事
らざるや。此を義理學の方と
初二の事ハ主用一なり。今の

君子と云ふするは。徒ら妻婦の法
め知らばある處より威儀の整
むんハ何事とてさるを志す。故
に主男と訓て檢る。書傳を
めつて。殊に主と事らざる
が。ある處より礼儀のなせざるハ

有^あべ^うらざ^られ^とを^を志^しら^ず但^だ男^{なん}を^を
 教^きて^を女^{にょ}を^を一^いを^を家^かと^と八^は儀^ぎ此^こ
 の^の教^きの^の蔽^{へい}ら^ずや^や礼^れは^は八^は歳^{さい}で^で
 始^{はじめ}て^を出^でを^を教^きへ^へ十^じ七^{しち}に^にそ
 學^{がく}は^は玉^{ぎよく}を^をと^とい^いふ^ふ獨^{ひとり}は^は依^{より}て^て
 則^{すなは}と^とす^すべ^べら^らに^にん^んや^や

敬慎章第三

陰^{いん}陽^{やう}性^{せい}を^を殊^{こと}ら^ら男^{なん}女^{にょ}の^のを^を異^い
 す^す陽^{やう}ハ^ハ剛^{こう}を^を用^{もち}て^て德^{とく}と^と陰^{いん}ハ^ハ
 柔^{じゆう}なる^{なる}を^を用^{もち}て^て男^{なん}ハ^ハ強^{きやう}
 を^を以^もて^て美^みと^と女^{にょ}ハ^ハ弱^{じやく}を^を以^もて^て美^み
 と^と人^{じん}ハ^ハ鄙^ひに^にい^いる^るを^をあ^ある^る

男おとこをうめ生うバう娘むすめの如ごとくな娘むすめもなか
 主そのにそああらあんんとともも恐おそるる女おんなをうめ生うまます
 氣そのそくく如ごとくも娘むすめをうめ生うまます
 んんとともも恐おそるるととああらあばばすすななままち
 身みをを修しゆるるああらあばば教けうははああらあばばすすななままち
 強つよとと進しんるるととハハ明めいははああらあばばすすななままち
 故ゆゑ

ハハ曰い敬けい順じゆんのの道みちハハ婦ふ人じんのの大だい礼れいととも
 ととそれそれ敬けいハハ他たハハああらあばば持もとと久く見み
 ののいいひひままりり夫そ順じゆんハハ他たハハああらあばば寛かん
 ハハ裕ゆうるるれれ謂いははれれ持もとと久く見みハハいいひひままりり足あ
 とと知しるるななりり寛かん裕ゆうハハああらあばば下くだるるこ
 とと尚なほむむななりり夫そ婦ふのの好すハハ身みをを修しゆるる

すぐ左の目^め房^{ぼう}室^{しつ}は周旋^{しゆせん}して遂^{つい}
は媒^め隠^{かく}とせ生^なず媒^め隠^{かく}既^{すで}は生^なすれ
は語^こを過^{あや}つ語^こを既^{すで}はあやますぐ
恨^い怨^いたるも必^{かならず}仇^{かた}る恨^い怨^いすぐ
仇^{かた}ると既^{すで}はまを侮^{あや}の心^{こころ}生^なず可^べし
是^{こゝろ}とを忘^{わす}らざるはよけれなり。持^もて

事^{こと}は曲^{まが}ると直^{ただ}と何^{なん}れと
仇^{かた}とあり直^{ただ}りのハ事^{こと}はなるを
とす。証^{しやう}争^{そう}はては施^せさよハ怨^い恨^い
あり。あま茶^{ちや}に下^{くだ}るを尚^{なほ}はざるは
まるはなり。まを侮^{あや}り部^べは可^べし

バ。婦言と。ふらふら。す。て
弁。利。辯。の。人。は。返。つ。る。り
容。と。ふ。ら。必。く。色。色。黄。黒。な
る。も。あ。ら。ず。婦。切。中。い。ふ。は。の。な
ら。ず。切。切。の。人。は。返。つ。る。り
そ。の。ら。に。清。深。々。静。め。て。即

を。あ。ら。ず。整。神。の。人。は。返。つ。る。り
あ。ら。ず。動。静。法。あ。る。是。を。婦。法。と。い
ふ。静。を。あ。ら。び。て。い。い。悪。語。を。い。ふ。人。は。厭。め。ず。
あ。ら。ず。然。る。後。い。い。人。は。厭。め。ず。
是。を。婦。法。と。い。ふ。塵。穢。を。盥。ひ。浣
ち。て。服。飾。鮮。潔。沐浴。時。を。あ。ら。ず

一て身垢つた辱ふをば是を妬
容とて心を紡績よきなり。戯笑
とを好む事あり。酒食を潔く齎て
以て賓客を奉じ。大進を妬切といふ。
け田のたれハ女人の大進なり。
乏は辱のらざるものなり。然て

是をなす事甚易し。唯心を存
するは阿るもの。友人いへる事あ
り。仁遠らんや。亦仁を欲せば
仁は至るは此の謂なる事。
専心章第五
禮。主と再要の義あり。妬ハ再

適ゆの文ぶんなり。故ゆゑにいちくまてん天
なり。天國てんこく逃にげる處ところあらば夫そもや
より難たがひるべからず。乃しか神祇しんぎにたが
ふとててん男をとこを尋たづねす。礼義れぎ
愆あやまちあるとたへおしてさ則すなはちて夫そをうすんふた
女に憲けんに曰いは意いを一人ひとりに得うる。是これを永えい

畢ひつといひ。意い欲よく一人ひとりに失うすふを
永えい託たくといふ。形かたちに由よしをうすふをい
へま夫そにそんをもとめすんはみる
うへん然れどもいはむるをあられ
ものをいふに毎日まいにちに苟も親
ともつまあらばもともいふをあらん

して色を正し。礼戎あつて潔く
 ちもよくあぐはち。耳淫ぐち
 聴とちく。目邪く。視とちく
 出て治容ちく。入て飾を廢ち
 とちく。群衆を聚め舎するち
 ちく。門戸を看視するち。是也

[illegible]

心をあきらめし。色を空しくす
る。あるをいふ。ふたなり。

曲從章第六

夫意を一人は得る。是を永畢と
し。意を一人は失ふ。是を永託と
ふ。人の志をさへめ。心をさへん

と欲するのいひなり。男姑乃心盡
す。夫は失ふ。きんや。相恩をりて
自離る。其れ何ぞ。また義をいひ
自破る。ものあり。また光のいふ
以て。男姑此れをいふ。けし
謂義をいふ。あつら破る。ものなり

り。然らば則男姑の心を何とせん。
固は世にあり。るに形。姑あり。
さることを忘る。是を忘る。いとも。
り。より。い。今。後。今。
姑ふ。き。を。此。あり。い。い。
い。何。い。命。い。い。

是。非。を。違。い。度。い。曲。れ。る。と。直。と。
争。い。か。ん。と。す。る。と。を。得。る。と。あ。り。
あ。い。ま。い。は。な。い。は。ち。い。は。い。は。い。
あ。い。ま。い。は。な。い。は。ち。い。は。い。は。い。
あ。い。ま。い。は。な。い。は。ち。い。は。い。は。い。
あ。い。ま。い。は。な。い。は。ち。い。は。い。は。い。

和井妹系第七

婦人の言をまよは得るは男
姑の已を先すあまの言り男姑
れ已を先するは叔妹の已を答
ふれまはゆあをいへたお臈
吾と答毀らるる一よお
妹よとて叔妹のんやあす失

ふるのらす人皆姉妹の失
さるを知らしめたるは
和たしめ親を求るあ
すそ蔽うね聖人よあらは
ハ能過たよとすくなく故顔
子ハく改るをまび仲尼

その婦を いん びせざるを よみ 嘉みふ。
あるを いん 況や ふん 婦人たるものや。
賢女 いん 此 おこちひ 乃 なり 聰哲 さうてつ の性 せい を せい の せい 徳 とく 有 あり す
とい い 下 げ も も 其 その 能 なり 徳 とく 有 あり んや このゆき 是 これ 故 ゆゑ
室人 しつじん 和 に する こと と なり 夫 そ へ に 傍 そば 掩 おほ ひ こと 外 ぐわい 内 ない を
けり こと 又 また は こと 惡 わる 揚 あがり る こと 是 これ 必 かならず 然 しか の

勢 いきなり あり えき 易 いそ 曰 いふ 二 ふた 人 にん 心 こころ を おな 同 ひとし うす
是 この 利 とく と なり 金 かね を きん 断 ことつ 同 ひとし 心 こころ の こと
其 その 具 ぐ 也 なり と なり 業 わざ の こと 也 なり と なり 此 これ
の こと 偶 ぐ たり なり 其 その 姉 あね と なり 妹 いもうと と なり 體 たい 敵 てき く
し こと 分 ぶん する こと 恩 おん 疎 そ し こと 義 ぎ 親 しん の こと 志 し
淋 りん 媛 ゑん 漢 かん 次 じ の こと 人 ひと 則 すなはち 能 なり 其 その 方 かた 以 もつ 之 これ

好^きを篤^{あつ}く恩^{おん}を蒙^{こう}てりて援^{えん}を
結^{むす}び微^きを乞^こひて顯^{あらた}く章^{あきら}を
服^{きつ}過^{あやまち}とて隠^{かく}塞^{ふさ}む男^{おとこ}姑^{めかけ}
影^{かげ}を善^よくし主^{しゅ}を嘉^{よろこ}ひ災^{わざ}を
邑^{いふ}鄰^{りん}に曜^{あや}き休^{やす}光^{ひかり}父母^{ふぼ}を
丈^さ意^い愚^ぐなる人^{ひと}ハ都^{みやこ}に在^ありて則^{すなは}ち名^な
丈^さ意^い愚^ぐなる人^{ひと}ハ都^{みやこ}に在^ありて則^{すなは}ち名^な

は託^{たく}してりて自^{みづか}らり妹^{いもうと}を
いへは女^めをもち寵^{あつ}をうけりて
孺^こり盈^みつ孺^こを既^{すで}に施^した何^{なん}乃^{なり}
和^わすむとて恩^{おん}義^ぎ既^{すで}に承^{うけ}
けハ何^{なん}終^{はつ}るまで孫^{そん}らんを
子^こ英^{えい}隠^{かく}れり何^{なん}やとて宣^{のたま}へ姑^{めかけ}意^い

てま惛り毀菅中外に布れ恥辱
 願身は集る進てハ父母の羞をふ
 一近てハ君子の思をすす恥乃
 栄辱の中より一顯名を去る情
 ざるらんや情とてハ姊妹の心を
 求るよハ固に謹明より尚かなる謹

ハするをち徳の柄なり順ち則
 母のりあるらん恥ふつもの
 ハ心と私を愛はく進りてはよそ
 く彼を去てを要るくはく
 けは在てハ射るよはく
 恥乃謂る恥

世訓の書曹大姑の女誡と第一と云ふ事ありて能く
と得たり然れども其旨遠くあるゆゑに又ハ誡書
の児女子に足と讀と甚難余當りて其旨を
今能く其旨と云ふ文と和け讀み解る事あり
て以て家々刻す柳教導の一助と云ふ事

天保甲辰夏

林道章誌
同藏板

大和女誡終

大和女誡

